

付録3 新型コロナウイルス感染拡大の状況における大学の対応について（東京工業大学）

1. 新型コロナウイルス感染症に対応して、教育課程の実施、授業の方法等について、学生の学習の質を維持するために行った取組の概要を確認したい。
大学回答欄 ・オンライン授業の準備などを行うため、2020年度前学期の授業開始を通常より約1ヶ月遅らせて時間割の見直しを行った。登校は見合わせる方がよい時期にはオンラインで開講する科目を集中的に開講し、実験など対面で行うことが望ましい科目は、集中講義のように時期を定めず、感染状況を見ながらタイムリーに開講するなど、柔軟なカリキュラム実施に努め、学生が標準修業年限内に卒業・修了に必要な単位数を修得できるようにした。 ・オンラインで開講する科目は基本的にはライブ配信とし、学生と教員、学生同士のコミュニケーションをとる場を確保している。オンデマンドで開講する科目は、ライブで開講する場合と比較してオンデマンドの方がより教育効果が高いことを、教育・国際連携本部で確認した科目のみ認めている。 対面で実施する科目については、密にならないよう受講人数に配慮し、感染対策を行った上で開講している。
2. 新型コロナウイルス感染症に対応して、学生の学習及び生活の支援について行った取組の概要を確認したい。
大学回答欄 ・コロナ禍の中入学してくる学士課程1年生向けのwelcome相談窓口（メール相談）を設置した。執行部のリーダーシップのもと、全学横断、教職員及びピアサポート学生による全26(うち、コロナ禍での新設窓口21)の相談窓口を新入生に周知している。(学士1年生が履修する各科目、所属学院、教務課等事務、保健管理センター、学生支援センター、ピアサポーターなど)。事務窓口以外の多くの窓口では、教員が学生からのメール相談に対応している。(2020年4月～7月中旬の相談件数：約2600件)。 ・学生間の交流を促進するため、学生支援センター が主催する新入生対象オンライン交流イベントとして、ピアサポーター によるオンライン談話室（サロン）をZoomにて実施している。学生主体で『コロナ禍でこころが縮こまっていませんか～臨床心理学で紐といてみよう～』が開催されたように、学生の発案や相互交流を促す試みを続けている。 ・オンライン海外留学プログラムを充実させており、2021年の夏は、グローバル理工人育成コースにおいてアメリカ、スウェーデン、スリランカの学生たちとのグローバル理工人国内研修（オンライン）、また、東南アジアの各大学とのプログラム（Tokyo Tech AYSEAS）を実施した。また、受入プログラムについても、オンラインで実施し、本学の日本人学生も参加させることにより、学生交流をより一層充実させることができた。このことから、アフターコロナにおいても、オンラインを活用した国際学生交流プログラムは恒常的に提供する予定であり、より多くの学生に対して、オンラインがトライアルになり、実渡航の留学への動機づけになることが期待される。 ・グローバル理工人育成コースでは海外渡航が制限されたコロナ禍において、学生の国際意識や異文化理解を向上させるため、留学や対面の国際学生交流の代替案を実施した。主なものは、次の2点である。1）マサチューセッツ工科大学（MIT）の学生との語学タンドム。（東工大生とMITの学生がペアになり、日本語、英語の会話セッションを続け、最後に共同でビデオを作成する。）2）ジョージア工科大学との異文化理解セッション（ジョージア工科大学の学生とコミュニケーションや意思決定の方法の違いについて、グループワークを行い、多様性の重要性を話し合う）。 ・コロナ禍においても、学習に支障がでないようにしていること、また学生生活を安心して送ることができるように大学として環境整備などを行っていることを、学生向け説明会を開催して説明した。（2020年6月4日Zoom、5日Zoom、2021年4月14日対面、9月27日Zoomの4回開催） ・新型コロナウイルス感染症の影響により収入等が減少し、緊急に経済的支援が必要である全ての学生を対象に、本学独自の貸与型奨学金「新型コロナウイルス感染症対応緊急貸与型奨学金」を創設し、2020年度、2021年度にそれぞれ緊急経済支援（年額30万円）を実施した。